

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170600227		
法人名	株式会社 東洋測量設計		
事業所名	グループホーム ふれあいの里 たちばな		
所在地	佐賀県武雄市橘町大字方白346番地 (電 話) 0954-23-1810		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年3月17日	評価確定日	平成 21年5月13日

## 【情報提供票より】(平成21年2月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 2 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	6.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成21年3月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	貝原医院 寺尾歯科 小林クリニック
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、古民家を改修して作られ、田園風景に溶け込んだ落ち着いたたたずまいである。屋内は、旧家のつくりを残しつつも、多くの段差はバリアフリーに改修され、安全に生活できる環境が作られている。入居者の個性にあった居室づくりがなされ「その人らしく」を基本理念とし、ここで良かったと思われる支援を目指し、日々支援が行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域の方との関わりや、ホームを知っていただく為の取り組み等、改善に向けて取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に目を通し、評価の意義を理解するよう努められている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度開催し、ホーム内の行事予定や出来事を報告し、区長、民生委員、地域包括支援センターの参加により、活発な意見交換がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の意見、要望は苦情箱の設置に加え、面会時に尋ね、早急に改善に向けて対応できるように努められている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣保班に加入、近隣の方が気軽に訪問しやすい環境作りがなされ、地域のゴミ拾いにも職員と一緒に参加し積極的に関わりをもたれている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく暮らせるように、地域の方を巻き込んだ開かれたホームとして、交流の場が作られるように独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、毎日朝礼の時に唱和し、日々意識づけがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受け入れや、隣保班に加入し、近隣の方が訪問しやすい環境作りなど、交流の場を作られている。又、地域のゴミ拾いや、夏祭りへの参加等、積極的に地域行事に参加するよう努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価報告書を職員全員で目を通し、意義を理解するように努められている。改善点については、職員間で検討を行い介護に活かすよう取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に一回開催し、行事予定、ホーム内の出来事などを報告し、区長、民生委員、地域包括支援センター等の参加で活発な意見交換がなされ、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターへは、月1回は訪問し情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の生活状況は、文章で、月一度請求書に同封し報告を行っている。又、緊急時等は電話やメールを利用し速やかに報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や面会時に意見・要望等を尋ね、早急に改善に向けて対応できるように努められている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員には事前に個々の声かけの方法等を伝え、入居者の状況を把握し、不安感や混乱がないように統一したケアができるよう配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は出来る限り参加できるように配慮がなされている。ホーム内では研修後、会議の中で伝達講習を行ったり、基本的な介護、接遇研修等を行い、技術の向上に努められている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流する機会を持たれていない。サービスの質の向上に向けて、ネットワークづくりや勉強会の活動を広げる事を課題とされている。	○	地域の同業者への積極的な訪問や、研修等を通して、情報交換を行い、ネットワークを広げる活動に努められ、サービスの質の向上を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に部屋を見てもらったり、入居者とふれあう機会等を持つことで安心し、納得して頂けるよう取り組みがなされている。入居後は、生活習慣に沿って無理強いしない支援がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩と尊敬し、昔ながらの習慣を引き出し、一緒に過ごしながら出来る事をみつけ、支えあう関係を築くよう努められている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が出来ない方へは、顔の表情等で、希望、意向を把握するように努め、一人ひとりの生活歴を理解した上で、入居者の立場に立った支援がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活の中で課題を見つけ、本人、家族の個別の意見を聞き、サービス担当者会議の中で個々にあった介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状態の急激な変化があった時は、担当者会議を開き、本人、家族、関係者と話し合う機会を設け、現状に即した介護計画を作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医の往診の受け入れ、必要に応じた受診の支援や、希望に応じて、買い物へ行ったり、以前住んでいた家や、先祖のお墓等へ一緒に行く等、柔軟な支援がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診、適切な医療、専門医によるアドバイスを受けられるような関係を築く取り組みがなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議でも「看取り」について方針の説明をし、本人、家族、かかりつけ医の意向、意見を聞きながら繰り返し話し合い、希望に添った支援、方針を共有されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルは名前が見えないように配慮がなされ、個人情報の取り扱いについては、プライバシーの確保の徹底に努められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課表は作られているが、一人ひとりのペースに合わせ、ゆっくと生活できるように臨機応変に、対応できるように努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳の手伝いを行ったり、楽しい食事ができるように、笑顔で明るい雰囲気づくりに努められている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴でき、時間も決めず、一人ひとりの希望に応じて入浴できるよう取り組まれている。又、入浴を拒否される方に対しては声かけの工夫を行い、楽しく入浴ができるよう支援されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の役割として、庭の手入れ、配膳、床拭き等積極的に行われ、消極的な方でも、ボランティアの踊りに合わせ、一緒に踊ったり楽しめる機会を設けられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は、希望を聞き、ドライブに出かけたり、お弁当を外で食べる等柔軟に取り組まれている。買い物へ一緒に行ったり希望に添って戸外に出かけるよう支援がなされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関出入り口は、自由に出入りができるように施錠はされていない。職員は見守りを行い、安全に生活できるように努められている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所の方との協力体制ができており、消防署立会いによる避難訓練は年1回、ホームとしては、3ヶ月に一度行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのよい食事ができるように、管理栄養士よりアドバイスを受け、食事作りに役立てている。水分は一人ひとりの状態に合わせて、好みの味のトロミをつけたり、工夫がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるような壁画づくりや、室温が保てる等、居心地よく過ごせるように工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参し、居心地良く過ごせるように工夫がなされている。		